

平成23年度
実施事業

事務事業名 野犬掃討等業務委託事業

区分	No	名称
章	2	自然とともに暮らすまち
節	1	環境への負荷の少ないまちをつくる
施策	1	環境に配慮した暮らしの構築
小分類	2	環境保全活動の推進
主要な施策	5	生態系の保全
事務事業番号	001	事業開始年度 平成 13 年度 事業終了年度 平成 - 年度 会計種別 一般会計

部 名	市民生活部	グループ名	環境対策室環境対策 G
-----	-------	-------	-------------

事務事業の概要

《Plan・Do》

目的	(事務事業の実施目的を具体的に記入してください)
	狂犬病の蔓延を未然に防ぎ、保健予防の充実を図るとともに、人や家畜に危害を加える動物の駆除等を行うことにより、市民の安全な生活を確保することを目的とする。
事業内容及び実績	(事業内容及び平成23年度の実績を具体的に記入してください)
	狂犬病予防法に基づき、畜犬の登録及び狂犬病の予防接種を実施する。また、野犬の掃討、蜂やカラスの巣の除去などを行う。 【事業内容】 ・畜犬の登録及び狂犬病予防接種 畜犬登録数 188頭 予防接種数 2,006頭 ・野犬掃討等 野犬捕獲数 14頭 小動物死骸処理数 53件 カラスの巣の除去数 41件 蜂の巣の除去数 486件
今後の方向性	(次年度以降の事業展開における改善など今後の方向性を具体的に記入してください)
	市民の安全な生活を確保するため、本年度も引き続き、人や家畜に危害を加える動物等の駆除に努めるほか、畜犬登録等においては、本年度、緊急雇用創出推進事業を活用して実施する畜犬登録実態調査の結果を活用し、狂犬病予防注射の勧奨等にいっそう努める。
根拠法令等	(事業を実施する際、根拠となる法令・条例・規則・要綱等の名称を全て記入してください)
	狂犬病予防法、登別市畜犬取締及び野犬掃とう条例

事業費（財源内訳）の推移

《Plan・Do》

区分		単位	H22年度 決算	H23年度 決算	H24年度 当初予算	H25年度 見込	H26年度 見込
国庫支出金	名称	千円					
道支出金	名称	千円					
地方債	名称	千円					
その他	名称	千円	1,734	1,691	1,810	1,810	1,810
一般財源	名称	千円	8,596	11,205	5,965	5,965	5,965
事業費 合計			10,330	12,896	7,775	7,775	7,775

指標の推移

《Check》

区分		単位	区分	22年度 実績	23年度 実績	24年度 目標	25年度 目標	26年度 目標
成果 指標	狂犬病予防注射摂取率	%	目標値	100	100	100	100	100
			実績値	79	77			
	犬の苦情処理件数	件	目標値	0	0	0	0	0
			実績値	12	11			

現況		《Check》
現状の状態、問題点、課題等《事業前》	具体的な対策、解決の方向性《事業後》	
平成18年度蜂の巣の駆除依頼件数：89件 平成19年度蜂の巣の駆除依頼件数：197件 平成20年度蜂の巣の駆除依頼件数：97件 平成21年度蜂の巣の駆除依頼件数：96件 平成22年度蜂の巣の駆除依頼件数：282件 平成22年度は夏が高温であったため、蜂の活動が活発化し、蜂の巣の駆除依頼件数が大きく増加し、予算計上時に想定していた件数を大きく上回ったため、予算措置を講じることとなった。	平成23年度蜂の巣の駆除依頼件数：486件 平成23年度はさらに増加した。蜂の巣の駆除は原則市が全額負担している。よって蜂の活動が活発な地域の市民への負担額が大きくなり、平等原則に適合しているとは言い難い。駆除費用の何割かを駆除依頼者に負担してもらうことなどを考えていく必要がある。	

担当グループによる事務事業評価の内容（複数回答可） 《Check》

1. 事務事業の妥当性について		
市が事業主体として実施していくべき妥当性の高い事業ですか？	市が主体に行うべき事業である	判断理由及びその他所見 野犬及びカラスや蜂の巣の取扱いは危険であることから、市民の安全を確保するため、市が行うことが妥当である。
	民間(事業者、市民団体等)でも実施可能である	
	国、道、他団体等との連携や広域化が可能である	
	国、道、民間等の事業と重複・類似している	
2. 事務事業の必要性について		
市民ニーズの状況等から勘案して、必要性の高い事業ですか？	市民、団体等から具体的な要望がある	判断理由及びその他所見 野犬、カラス及び蜂による被害は市の全域に渡り発生する可能性があり、市民の安全な生活を確保するために必要性が高い事業である。
	市民アンケートの結果から必要性が高い	
	社会情勢、地域事情等から必要性が高い	
	市民の大部分が関連することから必要性が高い	
3. 事務事業の効率性について		
事業内容とコスト(事業費)のバランスがよい効率性の高い事業ですか？	低予算、少労力で高い効果をあげている	判断理由及びその他所見 狂犬病が発症した場合の致死率が100%に近いこと、また、スズメバチの被害によって死者が出ることもあるため、これらを防止するためにも継続して実施していくべき事業である。
	市で実施するほうが民間委託より効率性が高い	
	多額の経費や労力を要するがやむを得ない	
	将来的に効率性を向上できる	
4. 事務事業の成果について		
目的を達成するための成果はあがっていますか？	成果指標の向上が見られる	判断理由及びその他所見 犬の苦情件数は年々減少傾向にある。予防注射摂取率は平成22年度から平成23年度にかけて減少したものの、平成22年度までは年々増加していた。
	市民、団体等の声から成果を感じられる	
	目に見える形で成果があがっている	
	成果の把握は困難である	

担当グループによる評価 《Check》

維持	左記の評価を選択した具体的な理由（根拠）	野犬については減少したが、飼犬の逃亡、遺棄が増加している。カラスの巣、蜂の巣、不快害虫等については、山沿いだけでなく住宅街でも増加傾向にある。特に蜂（スズメバチ）については、全国で死者も出る被害が発生している。
-----------	----------------------	---

行政評価会議による評価 《Check》

維持	備考	
-----------	----	--